

1 調査の目的

次期プラン策定の基礎資料とするため、子ども・若者の生活実態や意識、考え方等を把握するとともに、こども基本法第 11 条の趣旨を踏まえ、今後の本市施策に反映させるべき子ども・若者の意見を収集する。

2 調査実施にあたっての基本的な考え方

- ・回収率への影響を考慮し、設問数は 25 問～30 問程度とする。
- ・可能な限り平易な表現を用い、漢字にはルビを振る。また、必要に応じ用語の説明を入れるほか、こども意識調査については年代に応じた調査票 2 種を準備する。
- ・アンケートは郵送で配付し、回答については郵送又は W e b（調査票に記載の二次元コードから回答フォームへ誘導）を選択可能とする。

3 対象者・実施時期

【対象者】各区を人口比で按分した上で、住民基本台帳より無作為抽出。

- ・仙台市こども意識調査

対象：10～17 歳の子ども本人 8,000 人（各年齢 1,000 人）

- ・仙台市若者意識調査

対象：18～39 歳の若者本人 6,000 人（年齢毎の人数比按分）

【実施時期】令和 5 年 11 月上旬～令和 5 年 12 月上旬予定

4 設問についての基本的な考え方

設問については、以下のとおり用途を明確に意識して設定する。

- ① 属性分類の設問 … クロス集計等、データ分析のために使用
- ② 実態・意識把握の設問 … 次期プランの「現状と課題」の材料としての使用を想定
- ③ 意見聴取のための設問 … 次期プランの全体方針や施策への反映を想定

5 各調査の設問構成

【1】仙台市こども意識調査(計 26 問)

I. 基本属性（3 問）

年齢・性別等について、他項目における回答の傾向を分析するために使用する。

II. 日頃の生活について（4 問）

孤独・孤立の問題が重要視されている中、子どもの「居場所」の現状を把握し、本市における支援策を検討していくための基礎資料とする。

III. 今のあなたのことについて（6 問）

子どもの健全育成の状況を把握する上で特に重要とされる項目「自己肯定感」や「自己有用感」等にかかるデータを集計し、施策の成果指標とする。

また、子どもの悩みの内容や相談相手などについて把握するとともに、各種相談窓口の認知状況を把握し、今後の施策展開や周知方法の検討に用いる。

IV. 将来のあなたのことについて（7 問）

「将来への希望」に対する考え方を把握し、成果指標とする。また、結婚・子育てに対する子どもの意識を把握し、若者（18 歳～39 歳）と比較・分析する。

V. 地域活動・仙台市について（5問）

子どもを取り巻く「場」の1つである地域社会について、子どもの意識を把握し、次期プラン方針への反映を検討する。また、今後施策に子どもの意見を取り入れていく手法について検討するための材料とする。

VI. 自由記述（1問）

市が設定する設問・選択肢外の子ども意見を聴取する。なお、完全な自由記述にした場合、調査目的とずれた回答が増えることが想定されるため、設問内の例示で回答の方向付けを行う。

【例示（案）】仙台市や市長に伝えたいこと、子ども・若者にとってより良い社会になるため必要だと思うこと、あなたが自分らしく生きるために大人に望むこと

【2】仙台市若者意識調査（計 28 問）

I. 基本属性（4問）

他の設問の回答とクロスして属性毎の傾向を分析するために使用する。

II. 日頃の生活や自分自身に対する考え、人との関わりについて（8問）

子ども・若者育成支援推進法に基づく子供・若者育成支援推進大綱では、健全育成の状況を把握するために自己肯定感やチャレンジ精神、安心な居場所とを感じる場所が重要な項目として挙げられていることから、自分自身に対する評価や安心な居場所と感じられる場所、若者自身が望む居場所について把握する。

また、孤独・孤立を感じているかや他者との交流の頻度などについて把握する。

III. 悩みごとについて（5問）

子供・若者育成支援推進大綱では、基本的な方針として困難を有する若者への相談支援の充実が挙げられていることから、若者の悩み相談の現状を把握するとともに、若者が望む相談相手、相談形式を質問する。

IV. 自立・就労について（3問）

子供・若者育成支援推進大綱では、若者を取り巻く状況の把握において、就業の状況が重要とされていることから、現在働いていない者に対して、つまずきの理由や利用してみたい支援について聞き取り、自立・就労に向けた支援の検討につなげる。

V. 結婚や子育てについて（5問）

少子化社会対策大綱では、基本的な考え方として結婚・子育て世代が将来にわたる展望を描ける環境をつくることが挙げられていることから、結婚や子育てに対する若者の意識や意見を把握し、子ども（10歳～17歳）と比較・分析する。

VI. 仙台市への定着について（2問）

若者が今後も仙台市に住み続けるために重視することについて質問する。

VII. 自由意見（1問）

市が設定する設問・選択肢外の子どもの意見の聴取を目的とする。なお、完全な自由記述にした場合、調査目的から外れた回答が多くなることが想定されるため、設問の方向付けを行う。

【例示（案）】このアンケートでお伺いしたことに関して、日頃感じていることをご自由にお書きください。